

10月10日 川西市みつなかホール

第29回みつなかオペラ 景山伸夫：歌劇「満仲～美女丸の廻心」

オペラ

兵庫県川西市の「みつなかホール」の名称は、平安中期に活躍した同地ゆかりの武将・源満仲みつなかに因ちなんでいる。そこで20年ぶりに再演された「満仲～美女丸の廻心かむしん」こそ地域発信型オペラの典型例であり、作品、上演とも標準的な成果をあげた。

コロナ禍ゆえ全歌手がマウスシールドを着けての歌唱だが、定員500席に満たない小ホールのため日本語は適切に届き、字幕の助けもあって内容は分かりやすかった。演出（井原広樹）は対人間隔などには特に配慮せず、物語に即した自然な動きで展開。

満仲（片桐直樹）の子息美女丸（近藤勇斗）は、武力に逸はなる心が過ぎて勉強そっちのけ。父の怒りを買かい、お守り役の幸寿丸（香川梨佳）を死なせてしまう。激しく後悔し、密ひそかに高僧のもとに逃れて修行を積み、後年、僧・源賢となつて父母らと感動の再会をする。

台本（橋口武仁）は説話的な話の運びで手堅く構成。女性たち（岡田彩葉、他）の出番を対等に設けたことで、ドラマに立体感が出ている。

作曲（景山伸夫）も各場面を適切に表現。牧村邦彦指揮ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団ほかも堅実な演奏を聴かせた。 関根礼子◎音楽評論家